

くすり一口メモ

新規抗アレルギー薬について

抗アレルギー薬には、I型アレルギー反応に関する化学伝達物質の遊離や作用を調節する薬剤と、Th2サイトカイン阻害薬があります。今回は、2016年11月に販売開始となった新規第二世代抗ヒスタミン薬（H<sub>1</sub>受容体拮抗薬）である、ビラスチン錠とデスロラタジン錠の違いについてまとめました。

ビラスチン錠（ピラノア<sup>®</sup>錠）は速効性と効果の持続性があり、副作用（眠気、作業効率の低下など）が少なく、長期投与するうえで有効性と安全性のバランスが良い薬剤と言えます。食事の影響を受ける薬剤であり、空腹時投与に比べて食後投与時のAUC（血中薬物濃度時間曲線下面積）は約40%、C<sub>max</sub>（最大血中濃度）は約60%低下するので空腹時投与となっています。食事の1時間前から食後2時間までを避けて服用する必要があります。また、グレープフルーツジュースとの相互作用があり、AUCが約0.7倍、C<sub>max</sub>が約0.6倍に低下します。血漿中ビラスチン濃度の低下は、グレープフルーツジュースによるビラスチンの消化管からの吸収阻害に起因すると推察されていますが、機序は不明となっています。

デスロラタジン錠（デザレックス<sup>®</sup>錠）は、広く使用されている第二世代抗ヒスタミン薬であるロラタジン（クラリチン<sup>®</sup>錠）の主要活性代謝物です。ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体に高い親和性を示し、1日1回投与で食事に関係なく服用できます。また、成人のみではなく、12歳以上の小児に使用できることも特徴の一つです。

ビラスチン錠、デスロラタジン錠ともに非鎮静性の第二世代抗ヒスタミン薬であるため、添付文書上に自動車運転に関連した注意喚起の記載はなく、自動車を運転する方に使用できる薬剤となっています。また、2016年11月に薬価収載となっているため、2017年11月末日まで1度に処方できる日数は最大14日となっています。2剤の比較を表にまとめましたのでご参照ください。

表1 2016年に薬価収載された抗アレルギー薬

	ビラスチン錠20mg (ピラノア <sup>®</sup> 錠20mg)	デスロラタジン錠5mg (デザレックス <sup>®</sup> 錠5mg)
効能・効果	アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症）に伴うそう痒	
薬価(円/錠)	79.7	69.4
用法・用量	成人に1回20mgを1日1回空腹時に投与	12歳以上の小児及び成人に1回5mgを1日1回投与
食事の影響	あり 食後投与は効果が減弱する	なし
併用注意	エリスロマイシン、ジルチアゼム (P糖蛋白の阻害によるビラスチンの吸収率の増加に起因すると推定される、血漿中濃度上昇の報告がある)	エリスロマイシン (機序は不明であるが、エリスロシン又はケトコナゾールとの併用で血漿中濃度の上昇が認められた)
副作用発現率 (臨床試験実施時)	675例中16例(2.4%)	505例中20例(4.0%)
主な副作用	眠気：0.6% 口渇：0.3% 頭痛：0.3%	傾眠：1.0% 白血球数増加：0.6% 血中コレステロール増加：0.4%
t <sub>max</sub> (hr)	1.00	1.75
t <sub>1/2</sub> (hr)	10.54	19.5
自動車の運転等危険を伴う機械の操作の記載	なし	なし

参考文献：各社添付文書，各社インタビューフォーム

(鹿児島市医師会病院薬剤部 新上香奈子)